

学科名	電気通信工学科					
科目名	送配電工学					
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期	
必修・選択の別	選択科目					
担当者	牟田 浩司					
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・送配電線路の電気方式を理解し、電圧降下、線路損失の計算ができる。(A1,A9,A10,C6) ・送電線路の線路定数、電気特性を理解し、送電電力の計算ができる。(A1) ・送電線路の故障計算ができる。(A1) 					
日程と内容	<p>第1回：導入講義：講義内容の概略と授業の進め方、成績評価法について説明する。発電した電力がどのようにして高効率で需要家まで輸送されているかについて述べる。</p> <p>第2回：架空送電線路</p> <p>第3回：地中送電線路</p> <p>第4回：送電線路の電気的特性(線路定数)</p> <p>第5回：送電線路の電気的特性(送電特性と等価回路)</p> <p>第6回：送電線路の電気的特性(四端子定数)</p> <p>第7回：送電線路の電気的特性(電圧降下)</p> <p>第8回：送電線路の電気的特性(送電容量)</p> <p>第9回：故障計算(パーセント法)</p> <p>第10回：故障計算(対称座標法)</p> <p>第11回：送電線路の故障計算</p> <p>第12回：中性点接地方式</p> <p>第13回：配電方式</p> <p>第14回：総合演習 その1</p> <p>第15回：総合演習 その2</p> <p>定期試験</p>					
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%		
	臨時試験	0%	部外評価	0%		
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%		
	課題	0%				
	演習	30%	計	100%		
授業到達目標の達成度	到達目標の達成率は75%程度である。講義時間を考えて教える内容を精査し、重要な内容に絞ることが必要である。					
反省点	電力伝送の基本である三相回路の理解が不十分だったため、復習に随分と時間を割いた分、後半の故障解析が手薄になった感がある。また、板書の講義にも関わらず、教室の後ろに固まる学生が多く見られ、積極性を引き出すことができなかった。					
来年度の計画	授業内容の大きな変更は無いが、三相回路の復習は来年度からスタートする電力システム概論に移す予定で、来年度は三相回路の復習をコンパクトにし、その分故障解析や電力系統などを充実した内容にしたい。また、座席指定制にして前に座らせることで、授業への積極的な参加を促したい。					
授業評価アンケートに対するコメント	板書による講義に対する学生の反応が心配だったが、一部ノートを取らない学生には不評であった。しかし、実社会でもノートやメモを取ることは頻繁に必要なので、指導していきたい。					
履修登録者数	42名	定期試験 受験者数	40名	合格者数	39名	合格率 98%